

舞台は世界だ!

Go! Global

2015 KGM
グローバル人材
育成プログラム
レポート Vol.6



**KANTO GAKUIN MUTSUURA
JUNIOR&SENIOR HIGH SCHOOL**

アラスカ研修 Aurora House にて
撮影：オーロラ写真家 金子孔俊さん

ますます進むグローバル化は、加速するボーダーレス化とも言えます。中高一貫校での6年間は、入学から10年後、さらには20年後の社会を見据えて準備する大切な時と場です。ボーダーレスに向かう社会を早期に意識し体験する学習環境づくり。関東学院六浦は60周年を迎えた今、「若く純粋な想いを道へ……将来を世界に繋ぐこと」が新たな使命と考えています。

心が揺さぶられたアラスカ研修

今年からグローバル人材育成プログラムに、アラスカ研修が加わりました。2年間で多くの海外研修が創設されましたが、中でも異色の、理系要素が強いプログラムです。主目的はオーロラの観察です。記念すべき第1回は、3～5年生14人が参加しました。

オーロラ観察のチャンスは、この研修中に4回用意されていました。オーロラベルトの下にあり晴天率が高いフェアバンクス、そこから100kmほどのところにあるチナホットスプリングスは、ホテルの周囲に人家はありません。2月は夜も長く、観察に最適な条件が整っていました。

3泊したチナホットスプリングスリゾートでは、敷地内に備えられた滑走路がオーロラの観察場所になっており、観察用の待避所が24時間開いています。初日と3日目はその施設を利用しての観察、2日目はキャタピラ雪上車で30分かけて山頂に向かい、遮るものない360°の全天に浮かぶオーロラを観察しました。4日目はフェアバンクスに移動し、日本人写真家の拠点

で撮影アドバイスを受けながら観察しました。観測の様子・感動は生徒の報告に譲りますが、4回中3回も観察することができたことは、本当にラッキーでした。特に2日目の山頂での観察は、次々と変化する様子、色の違い、様々な形状を見ることができ、十分にオーロラを堪能できました。

オーロラだけでも満足度の高い研修でしたが、魅力はそれだけではありません。アラスカ大学でのHampton教授の講義はとても興味深いものでした。生徒たちは、美しく広大なキャンパスのアラスカ大学での授業に「留学」を現実のものとして意識しましたし、現地に住む日本人ガイドさんの話にも関心を寄せていました。フェアバンクスのビジターセンターで見たイヌイトやインディアンの生活、ロシアからアメリカが買収し、その後豊富な地下資源が発見されて発展したアラスカの歴史、何より、広大な土地に棲息する野生動物たち…。まだまだ多くの魅力がアラスカにはあります。アラスカ・フェア

バンクスに抱くイメージは、アメリカの中でも特にローカルな場所と考えていました。しかしそんな土地柄こそが、生徒たちを引きつけ、世界に目を向けるきっかけになったように感じました。 引率教諭 大藤行央



夢中になってシャッターを切った！オーロラ観察

【1日目】チナホットスプリングスリゾートにて午前0時30分オーロラ発生

日本ではめったに見られない星屑の降る満月の寒空の下、私たちは初めてのオーロラ観察を開始した。午後11時にアクティビティセンターに集合し、オーロラが発生するのを今か今かと待ちわびていた。私は2人の友人と共に雪の上で寝そべりながら空を眺めていた。手足の先が冷たくなっていき、時々3人で深い雪の中を走ったり、流れ星を見たことにはしゃいだりした。

そしてついにその時はやってきた。午前0時30分頃、寒さが身にしみてきた私たちは、空に白い霞のようなものが光っているのを発見した。「あれがオーロラなのか…?」と考え、カメラを構え、シャッターを切った。するとどうだろう。写真ではきれいなエメラルドグリーンカーテンが空を覆っているのではないかと。

これが、オーロラ!! 私たちは夢中になってシャッターを切った。

少しずつ、ゆっくりだが確実に動いている美しいオーロラを見て、私は思った。「ああ、来てよかった。見られてよかった。こんな美しいものが見られて」と。

時間が経つにつれ、写真でしか色づかなかったオーロラもはっきりとし始め、肉眼でもきれいな緑が見えるようになってきた。「まるで生きているのでは」と思った程、不思議な現象を私たちは見ることができた。

観測は午前3時まで続き、肌を刺す寒さの中、満足気に笑う私たちの頬は真っ赤に染まっていた。(4年5組 岩田あゆみ)

【2日目】山頂にて

この日は「キャタピラ雪上車ツアー」という、オーロラをより近くで鮮明に、遮るものない場所で見たいという人向けのツアーに行きました。キャタピラ雪上車は、中はリムジンのような椅子の配置になっていて、床にはすのこが敷いてあり、床が濡れないように工夫されていました。乗り心地はお世辞にも快適とは言えず、常にガタガタという音と振動が伝わってきました。

この日は恵まれていて、ツアーに行く午後7時ごろからオーロラが見えていました。山頂につくとホテルの滑走路で見ていた時とは違い、遮るも

のが何もなく、360°パノラマビューで見ることができました。

山頂にはモンゴルのゲルのような簡単な建物がありました。そこで暖をとったり、温かいスープや紅茶、コーヒーなどを飲むことができました。

この日のオーロラは活発に動いていて、数分間じっとしていれば、あらゆる方向にオーロラの動く様子が、前日をはるかに凌ぐスケールで観察できました。先端がヘビのようにグルグルとなっていたものや、虹のようになっているものもあり、前日わかりにくかった色の違いもわかりました。ずっと見ていると寒さを忘れられるくらい熱中して楽しむことができました。ホテルに戻る午前2時までにはあという間でした。(4年4組 重田春季)

【4日目】「Aurora House」にて午後11時過ぎから観測開始

初めは空が曇っていて、オーロラは見えず、観測できるか不安だった。「もうだめかも」とあきらめかけていた時、空がだんだんと晴れてきた。それと同時にオーロラも現れた。それは1日目、2日目とはまた別の美しさを見せてくれた。

最初はカーテン型オーロラではなく、空にできた美しい雲のようだった。しばらくじっと見ていると、オーロラが動いているのが観測できた。やがてカーテン型のオーロラに変化していった。私たちは感動し、思わず声をあげた。この日のオーロラは緑色だったが、ほんの一瞬だけ一部分が赤いオーロラが見えた。ほんの3～4秒のことだったので、はっきりとは見えなかった。

このフェアバンクス近郊にある「Aurora House」はオーロラ写真家、金本孔俊さんのアラスカでの拠点である。その金本さんに写真を撮ってもらった。金本さんは日本の自然写真家で、1994年以降、主にアラスカ州の自然風景の撮影をライフワークにしている。そんな有名な金本さんに撮ってもらった写真はとてもきれいですごかった。普通のカメラで一般の人がオーロラを撮影しても、こんなにはっきりと写真を撮ることはできない。

最終日にもオーロラを見ることができたのはとても良かった。オーロラの神秘的な美しさを胸に焼きつけるとともに、アラスカで学んだことを将来や学校生活に生かしていきたい。(3年5組 吉田杏)



上出洋介先生による事前学習

今回のアラスカ研修で、もっともお世話になったのは上出洋介先生です。上出先生は、日本のみならずアラスカ大学などでオーロラ研究をされ、現在は名古屋大学名誉教授であり、りくべつ宇宙地球科学館館長をされています。太陽やオーロラに関する著書を多数出版されています。

アラスカ研修を募集するにあたり、9月に中学生対象で講演をしていただきました。先生はまず、「どうしてオーロラを見に行くべきなのか」と生徒に問いました。答えははっきりと示したわけではありませんでしたが、ご自身の生涯をかけて研究しているオーロラへの思いの深さを感じました。またオーロラにはまだまだわからないことが多く、研究の余地があることや、そんな理屈抜きにオーロラが美しく、見る価値のあるものであることを語られました。クイズを出したりユーモアを交えたり、中学生を引きつけるお話をしてくださり、生徒たちも熱心に聴いていました。また、本邦初公開のみごとなオーロラの写真を見せて頂いた事は、生徒の思い出に深く残ったようです。生徒から質問もできるなど、盛況のうちに講演は閉じられました。

アラスカ研修参加者決定後は、先生が監修されている「宇宙から見たオーロラ展」でお会いし、アラスカからのオーロラ中継を前に、解説をしてくださりました。また出発1週間前の直前説明会の際にもお越しいただき、授業をしてくださいました。このときはもう「アラスカモード」の生徒たちでしたので、多くの質問が飛び交いました。

上出先生によってオーロラへの思いが高まり、また現地での楽しみも広がったと思います。本当にありがとうございました。



地球市民講座 ～世界とつながる授業～

今年度より、2年生と3年生は総合学習「地球市民講座」を受講しています。ボーダーレス化・グローバル化が進む中、世界では私たちの生活とは切り離すことのできない様々な問題や出来事

が起きています。世界で起きていることを、自分たちには関係のないこととして過ごしているのでは、十年後、二十年後に、社会に貢献することはできません。この地球市民講座は、「世界に目を向

ける」「世界で起きていることを自分に関係することとして考える」ということが目的です。

生徒達はこの1年間、以下のテーマに熱心に取り組みました。

2年生

テーマ1 「世界の諸問題について考える」

講師の先生方のお話を聞き、環境問題、児童労働問題、紛争など、世界で起きている諸問題から、自分たちの興味のあるものを1つ選び、調べ、話し合い、班で1つの壁新聞にまとめる。

テーマ2 「海外の中高生の日本での研修旅行を企画しよう!」

アメリカ、マレーシア、カンボジア、台湾から1ヵ国を選び、その国の中高生のための研修旅行プランを立て、パンフレットを作成する。相手国と日本の両方について知り、研修旅行のテーマを設定するところがポイント。まとめとしてプレゼンテーション大会を開き、最優秀プランを決定する。

3年生

テーマ 「世界の宗教と文化」

講師の方々のお話を通して、疑問に思った宗教的事柄、世界の宗教と文化について、各自、論文を作成する。まとめとして、パワーポイントを使いながら発表する。



論文発表

校長先生のメッセージ

昨年一年間、学校説明会で申し上げてきたことの一つに、「感受性が柔軟なうちに体験させましょう」があります。

「鉄は熱いうちに打て」という言葉にも似ていますが、少し違います。鉄はいつでも熱して再加工が可能です。しかし、人間の持つ感受性は、成長や学習の深まりとともに特定の指向性を持ち始めると再加工は難しいものです。人は、ある方向の特定の分野にはいつまでも感受性は鋭く、時には芸術的なレベルまでも深化します。一方、感受性のくすぐられない対象は、次第に、「興味がない」や「関心が低い」という言葉で片付けられるようになります。

中学生から高校生までの学校での6年間は、身も心も大きく成長する「時空」です。見るもの触れるもの全てに興味を深く示した乳幼児期に

も似ますが、この6年間は、新しい「世界」を小学校までの自分の生活経験に照らして直接感じたいと欲する、あらたに感受性の輝く時と場所です。その時空には、成長に合わせた様々な刺激がなければなりません。

関東学院六浦中学校・高等学校は、2014年度から新しい時空を創りました。明日のグローバル化社会の「磁場」を意識した時空の中、堅実な学びに結びつく実学的経験の数々を提供する研修プログラムは、子どもたちの柔軟な感受性に応える確かな教育の業です。

関東学院六浦中学校・高等学校
校長 黒畑 勝男





マレーシア SMJK KATHOLIK との交流会

ルをしているよ！」との声が多く上がりました。同じアジアで生きる同世代で交流を持ったこの日の体験が、将来の彼ら彼女らの生き方の糧となることを願ってやみません。

(3年5組担任 柳澤 聖)



My friends in Malaysia!

I'd like to talk about my experience with visiting junior high school students from Malaysia to KGM.

I didn't know what the situation would be like because I had never met a Malaysian person before. My class didn't know what we should talk about or show them about Japanese culture.

Each Malaysian student was put together with one "buddy" for a few hours.

At first we were all so nervous. Of course they couldn't speak Japanese and we couldn't speak English very well.

Although we speak English regularly in our English classes, we were worried whether they would understand us. But after we met, we were so happy because we could communicate. Of course, we couldn't use difficult language but we spoke with simple English and used gestures.

I realized that even with only simple English we can share your feelings. By being active and positive, we can communicate with people from around the world.

(3-5 Anna Takagi)

「今度マレーシアの学校と交流会をすることになったからね。」と3年5組の生徒に伝えたのは、10月下旬。その後、六浦祭を挟み、11月12日(木)の交流会まで実質約1週間という短い期間で準備をしました。

当日、校門で SMJK KATHOLIK の生徒をクラス全員が出迎え、会場となる多目的ホールへと案内しました。事前に SMJK KATHOLIK の生徒1人に対して本校の生徒1人のバディを決めていたのですが、最初はお互いに緊張してなかなかコミュニケーションを取れない様子でした。

当日はすべて英語です。それぞれの学校のスピーチと学校紹介から始まり、SMJK KATHOLIK の生徒たちが民族衣装を着てダンスを披露してくれました。その後のプログラムはすべて本校の生徒たちが企画したものです。まずは、空手と合気道の紹介。続いて、外に出てドッチビー大会。このあたりから打ち解ける様子が随分見られるように

なってきました。さらに多目的ホールへ戻った後は、ダンス、クラス紹介も兼ねたチーム対抗のクイズ大会、羽子板大会と盛りだくさんのプログラムでした。そして記念撮影をし、3年5組の生徒は一部を除いてお別れです。その後はバディの生徒が茶道部の待つ茶室へと案内し、そこで茶道部員が点てたお茶と一緒にいただき、校門で見送りをしました。

多民族国家マレーシアでは各民族間のコミュニケーションが英語で行われているため、SMJK KATHOLIK の生徒たちはとても流暢に英語を話します。3年5組には元々英語が得意な生徒や諸外国に興味のある生徒が多いのですが、その流暢な英語に衝撃を受けたようです。しかし、本校の生徒も臆することなく、積極的に英語でコミュニケーションを取っていました。また、交流会翌日の朝のホームルームでは、「楽しかった!」「マレーシアに行ってみたくと思った!」「もう昨晩からメー



カンボジア サービス・ ラーニング研修

今回で2度目のカンボジア サービス・ラーニング研修。2015年12月21日(月)~27日(日)の7日間で実施しました。キエンスワイの中学校やタケオの小学校、SATO JAPAN CENTERでの教育交流プログラムで、「どうしたらカンボジアの子供たちが喜んでくれるのか?」を何ヶ月も前から皆で考え、準備して臨んだ研修です。「ちぎり絵」「運動会」「大縄大会」「クリスマス会」など、生徒達は一生懸命に取り組み、子供たちの笑顔に触れることができ、カンボジアと日本のつながりを考えることができた素晴らしい機会となりました。

帰国後の反省会では、「英語・クメール語・日本語では意思疎通ができないカンボジアの子供たちと、どうやってコミュニケーションをとったのか?」という話し合いで、「とにかく一生懸命にやる」「できたときは一緒に喜び」「笑顔で対応する」の3つでコミュニケーションがとれたという意見になりました。「一生懸命な姿勢」「喜びの共有」「笑顔」がコミュニケーションであるという結論に、本当に素晴らしい学びをさせていただいていると心から感謝しています。

引率教諭 長塚・九渡・石川



私は、昨年に続き2度目のカンボジア サービス・ラーニング研修参加でしたが、今回は前回より学べたことが多かったと感じます。

4日目の小学校での運動会は、おそらく大成功ではないかと思えます。カンボジアの子供達も大いに喜んでくれたし、自分たちもそれ以上に楽しく、最高の時間になりました。その後の大縄大会はさらに大盛り上がりで、子どもたちは3人一緒に跳ぶなどして、大変楽しそうでした。

クリスマス会では、「サンタクロース」の説明から始めました。絵とクメール語の説明を書いた画用紙を事前に準備し、皆で説明したあと、サンタクロ

ースに扮装した後輩が登場し、子供たちにプレゼントを配りました。サンタクロースが登場したときは、教室の盛り上がりが頂点に達しました。きっとサンタを信じてくれたと思います。よかったです!!

今回のサービス・ラーニングに参加して、改めて世界には自分と全く違う環境にある人たちが居ること、そして自分も互いに理解しあい、助け合うことができるとわかりました。次の機会も、ぜひ積極的に参加したいと考えています。また、参加した2回の経験を活かして、これから日々大切に過ごしていきたいと考えています。

(3年1組 木原空海)

